

マナの家 2024 年度提供分の放課後等デイサービス評価保護者アンケート結果

※今年度は放課後等デイサービス登録者 26 名にアンケート調査を依頼し、8 名の保護者から回答があった。

		チェック項目	○	?	×	ご意見
環境体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	8			
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	5	3		
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	1		
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているか	7	1		
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	8			
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	4	1	
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7	1		
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7	1		
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8			
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	5	1	
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知・説明し、苦情があつた場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	2		
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	8			
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	7	1		
	⑭	個人情報に十分注意しているか	7	1		
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	5	3		
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	2		
満足度		子どもは通所を楽しみにしているか	8			
		事業所の支援に満足しているか	8			

マナの家 児童発達支援管理責任者
森井幾也

アンケートは契約児童家族26に配布し8家族から回収を受ける。とても有意の回答数とは言えないが今年も真摯に対応したい。アンケート結果は上記のとおりとなっている。二名の方が評価できないとされた項目が⑥の放課後児童クラブなどとのインクルーシブな活動機会の有無と、⑩の保護者会に関する項目についてであった。またこの二項目は中間値の「どちらとも言えない」も⑥が4、⑩が5と多い。この二項目は毎年保護者から再確認を求められている課題となっている。その理由としてはこれらの項目が当事業所の基本的な方針、また地域の実情などと関連した内容となっていることが上げられる。以下高評価ではなかった項目についての記載となっている。

- ② 職員の資格について運営設置基準は満たしているが資格と専門性についてはその有用性のプラスとマイナス両面を保護者には説明してゆく必要があると考えています。また私どもマナの家は資格よりも人柄を重視して職員を採用・配置しており、事業所としてはそのことが逆に現在の地域での評価につながっているとも考えています。専門性については政府のガイドラインで示されているような応用行動分析や SST ではなく子どもの発達と保育に主眼を置いた支援を行っており、こうした観点からの支援が障害を持つ子どもたちの自立の上で大切な意味を持っているということを今後も家族には繰り返し懇切丁寧に伝えてゆくしかありません。
- ③ 玄関やトイレなど等事業所の主たる利用者考えた時に十分な環境整備がされていると考えています。もう一度施設内の合理的配慮に基づく環境整備について見直してゆきます。
- ④ 客観的に分析はできていると考えています。ただ子どもたちの外形的な問題行動を表面的に消してゆくのではなく、その問題行動の中にある次の成長発達の芽を育ててゆくという方向の支援を行うことが多く、保護者家族と子どもの発達のニーズの共有が不十分なまま支援が行われているのかもしれない。こうしたニーズの共有化を目指してケアマネージャーと連携して対応してゆきたいと考えています。
- ⑥ ここはどちらともいえないという中間評価が4名、不評 1 名と前年度よりポイントが低くなっているところ。一昨年はコロナ禍により交流が制約されたこともありましたが、昨年は交流イベントを持つことができなかったため今年は企画してゆきたいと考えています。
- ⑦ 支援の内容について、当事業所はただのお楽しみプログラムになることはほとんどなく、すべて発達支援、自立支援の綿密な分析に基づいて行っており十分説明できていなかったとは思いません。ただ発達心理学的な観点の理解が求められる個所があり、保護者家族にとっては、わかりづらい説明になってしまっていたことがあったものと思います。この辺りは引き続き児童発達支援管理責任者に説明の習熟を促したいと考えています。
- ⑧ ④同様相談支援専門員と連携してゆきたいと思いますが、障害児相談支援のケアマネジメントのプロセスの中で保護者子どものニーズの抽出に手が付けられないままコーディネイトだけが先走りしていることがしばしばみられるようです。こうした点は相談支援分野の課題でもあるので国や都道府県研修などを通して改善していただきたいとも思っています。
- ⑩ この設問は現状の障害福祉サービスの制度の在り方にはなじまないと考えています。市場化された中で顧客に相当する利用契約者を事業所が組織するのは利益相反にもなり本末転倒で、中立な立場にある相談支援や自立支援協議会の当事者部会で課題として取り上げるべきと考えています。自立支援協議会や基幹相談支援センターなどに働きかけてゆくと同時に保護者にも説明してゆきたいと思っています。昨年山武地域親の会にそうした制度上の地域課題(具体的には当事者部会の育成)について取り上げていただけるようお願いしたところです。
- ⑪ 苦情対応の体制は整備しているので、その説明を再度行うとともに、その周知について方法など再検討してゆきたいと思っています。
- ⑬ 再度振り返りを行って自助努力に注力したいです。ホームページをより分かりやすくするためのリニューアル作業を進めているところです。
- ⑭ 再度遺漏無きよう管理に徹底を期したいと思います。
- ⑮ マニュアルはすでに作成しているが周知徹底について再度行いたいと思います。
- ⑯ これは年間 4 回の火災訓練、津波避難訓練を事業計画に位置づけて行っており、その模様は可能な範囲で Facebook に掲載しています。

結語

等事業所で最も保護者への説明で力を注いでいるところは発達保障に基づく障害児保育の重要性です。社会福祉の基礎構造改革以来子どもたちの外形的な問題行動のみに着目した短期的な支援だけが専門性のある支援と呼ばれがちな昨今障害児支援の風潮の中で、私どもの意図するような支援内容の説明を理解するのは簡単ではありません。しかしここには子どもたちが国際条約上の概念に裏打ちされた自立に至ってゆくための極めて重要なプロセスがあります。マナの家ではこれを今年も訴え、実践し、保護者家族の方々の理解を得てゆきたいと考えています。

(マナの家施設長:田中哲)